

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 今週の注目材料 = 高水準の米物価上昇傾向継続か？

2022年6月6日

10日に5月の米消費者物価指数(CPI)が発表されます。

9月以降の米国の利上げについて、ウォラーFRB理事発言などをきっかけに、すでに方針が示されている6月、7月と同じく0.5%利上げを行うという期待が強まる状況となっています。

5月の連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨において、大方のメンバーの見方として、6月、7月の利上げを受けて年内に金融引き締め効果を検証する好位置につけることが出来るという見通しが示されました。言い換えると、今後の経済動向次第で利上げなどの金融政策の状況が変化するという事です。カギを握るのは米FRBの2大命題である「雇用の最大化」と「物価の安定」。特に利上げの要因となっている物価の状況に対する注目度がかかなり高くなっています。

米国のインフレーターゲットの対象はPCEデフレーターとなっています。ただ、計測対象範囲が広く、計測方法などが煩雑な関係もあり、水準は違うものの変化の動向などが似通っている消費者物価指数(CPI)が、その発表の早さもあって市場では重要視される傾向があります。

前回4月分の米CPIは前年比+8.3%となりました。変動の激しい食品・エネルギーを除いたコアCPIの前年比は+6.2%となっています。3月の+8.5%、+6.5%からは鈍化しましたが、市場予想の+8.1%、+6.0%よりは高く、期待ほどの鈍化を見せずという結果になりました。

市場では物価が大きく鈍化した場合、ピークアウト期待が強まるのではという見方がありましたが、そうした見方が後退する結果となりました。

前回のCPIの内訳を確認してみましょう。もっとも目立っているのが、前年比+43.6%となったガソリン価格です。3月は+48.0%となり、全体を押し上げる要因となりました。4月も相当な高水準ですが、3月からは鈍化した分、全体の数字も3月より鈍化する形となっています。EIA（米エネルギー庁エネルギー情報局）によると、全米全種平均でのガソリン価格は3月の4.222ドルから4月は4.109ドルへ2.7%の低下を見せており、その影響が出たと見られます。

ガソリンなどのエネルギー価格と並んで全体を押し上げている要因の一つである自動車は、中古車・トラックが3月の+35.3%から+22.7%に低下も、依然として厳しい数字です。新車価格は3月の+12.5%から4月は+13.2%にこちらは上昇しています。

3月から4月にかけて物価の上昇が特に目立ったのが食品価格です。特に家庭用食品については3月の+10.0%から+10.8%に上昇しました。

NY市マンハッタン地区などごく一部を除いて車が生活必需品である米国にとって、自動車価格の上昇とガソリン価格の上昇が著しく、さらには食品価格まで上昇傾向を強めるという状況は、家計にかなり厳しい状態です。こうした状況が米FRBに対する物価高への対応圧力となり、積極的な金融引き締めにつながっています。

こうした状況を受けて、今回の見通しです。市場予想は前年比+8.2%、食品・エネルギーを除くコアは5.9%が見込まれています。前年比で大きな上昇を続けるガソリン価格については、ウクライナ問題の長期化と、それによる世界的な原油高の影響で、4月から5月にかけてガソリンの小売価格も上昇しています。EIA調査によると全米全種平均で5月の最終週は1ガロン当たり4.624ドルと、4月の月次平均の4.109ドルから大きな上昇傾向に。月次平均で比べても5月は4.444ドルとなっており、8.15%の大きな上昇を見せています。こうした状況がCPIにもかなり大きな影響が出ていると見込まれます。食品については、4月の大幅な上昇の要因となっている鳥インフルエンザの問題がまだ続いており、鶏肉や卵などを中心に価格上昇が見込まれます。ただ、イースターシーズンでこれらの需要が大きかった4月に比べると、影響は抑えられている可能性があります。

自動車価格については、半導体不足からの生産の遅れが続いており、価格も高い状況が続いていると見込まれます。日系大手4社が発表した5月の米国での新車販売は、前年同月比4割の減少。旺盛な個人消費動向から需要はあるものの、供給制約が続いており、こちらは価格にも影響しています。

これらの状況から5月の消費者物価指数は、市場予想前後の高い水準を示す可能性が見込まれると見込まれます。ガソリン価格の上昇は、流通コスト増などを通じてその他の価格にも大きな影響を与えるため、予想を超える上昇となる可能性も十分にありそうです。

物価高のピークアウト懸念が進まない、前回のような高い水準が示されると、ドル買いの動きにもう一段の拍車がかかる可能性があります。

#### 山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。